

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2002-163204
(P2002-163204A)

(43)公開日 平成14年6月7日(2002.6.7)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	ターマコード*(参考)
G 0 6 F 13/00	6 0 1	C 0 6 F 13/00	6 0 1 C 5 K 0 6 7
H 0 4 Q 7/38		H 0 4 B 7/26	1 0 9 M

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 5 頁)

(21)出願番号 特願2000-357718(P2000-357718)

(22)出願日 平成12年11月24日(2000.11.24)

(71)出願人 000001122

株式会社日立国際電気
東京都中野区東中野三丁目14番20号

(72)発明者 四枝 英明

東京都中野区東中野三丁目14番20号 株式
会社日立国際電気内

(74)代理人 100093872

弁理士 高崎 芳紘

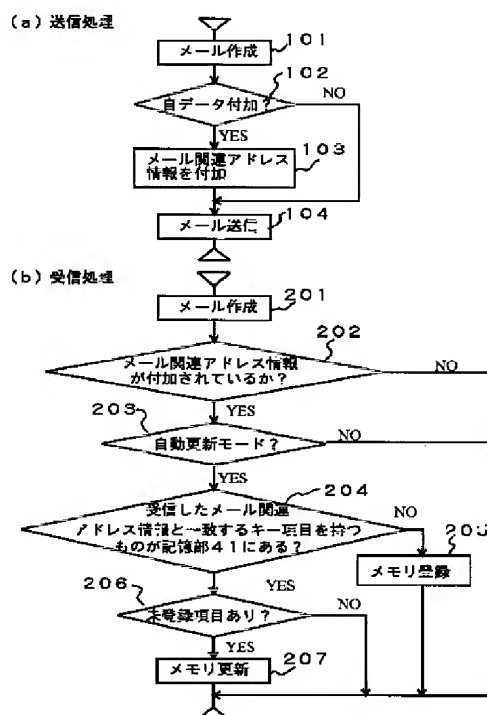
Fターム(参考) 5K067 AA34 BB04 BB21 DD13 DD51
DD53 EE02 FF02 HH22 HH23
KK15

(54)【発明の名称】 携帯電話機

(57)【要約】

【課題】 メール機能を持つ携帯電話機において、メール関連アドレス情報の登録を自動化して操作性を向上する。

【解決手段】 送信側では自機のメールアドレスを含むメール関連アドレス情報をメール文に付加して送信し、受信側では、メール関連アドレス情報の付加されたメール文受信時にそのメール関連アドレス情報が自機メモリに全く未登録であればそれを自動登録し、部分的に登録されていたり変更されているときは受信メール文中のメール関連アドレス情報によりその登録内容を自動更新する機能を持たせる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 メール送信手段及びメール受信手段と、少なくともメールアドレスを1つの項目として含むメール関連アドレス情報を記憶するためのメール関連アドレス情報記憶手段とを備えた携帯電話機において、前記メール送信手段は、前記メール関連アドレス情報を送信メール文に付加して送信するメール関連アドレス情報付加手段を有し、前記メール受信手段は、受信メール文に前記メール関連アドレス情報が付加されているか否かを判断する判断手段と、この手段により前記メール関連アドレス情報が付加されていると判断されたときにそのメール関連アドレス情報による前記メール関連アドレス情報記憶手段への登録もしくは更新を行うか否かを選択する選択手段と、この手段により登録もしくは更新が選択されたときに前記受信メール文に付加されたメール関連アドレス情報による前記メール関連アドレス情報記憶手段への登録もしくは更新を行う登録／更新手段とを有したことを特徴とする携帯電話機。

【請求項2】 前記登録／更新手段は、メールアドレス所有者固有の項目をキー項目として前記受信メール文中のメール関連アドレス情報と前記メール関連アドレス情報記憶手段に既に記憶されている各メール関連アドレス情報との比較を行うキー項目比較手段と、この手段によりキー項目の一致するメール関連アドレス情報が前記メール関連アドレス情報記憶手段に見つからないとき受信メール文中のメール関連アドレス情報をそのまま前記メール関連アドレス情報記憶手段へ登録するメール関連アドレス情報登録手段と、前記キー項目比較手段によりキー項目の一致するメール関連アドレス情報が前記メール関連アドレス情報記憶手段に見つかりかつその見つかったメール関連アドレス情報と受信メール文中のメール関連アドレス情報とに不一致があるときには受信メール文中のメール関連アドレス情報により前記見つかったメール関連アドレス情報の内容を更新するメール関連アドレス情報更新手段とから成ることを特徴とする請求項1に記載の携帯電話機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、メールの送受信機能を備えた携帯電話機に係り、特にメールアドレス等のメール関連アドレス情報を自機内に登録するときの操作性を改良した携帯電話機に関する。

【0002】

【従来の技術】携帯電話機のメモリダイヤルには、発信頻度が高いと思われる相手方の名前と電話番号を含む情報が登録されていて、発信時の操作性を向上させるようにしている。このメモリダイヤルへの登録時には、名前や電話番号を1つずつ、キー操作により入力する。メールの送受信機能を備えた携帯電話機では、よくメールを

送る相手方の名前とメールアドレスを含むメール関連アドレス情報をメモリに登録し、この登録した相手方へのメール送信時にはメモリダイヤルと同様の簡易な操作で済むようにしている。このメール関連アドレス情報のメモリへの登録操作は、やはりキー操作を繰り返して行う。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】携帯電話機のキー操作により名前やメールアドレス等を入力するのはかなりの労力を必要とする。またメール関連アドレス情報1件当たりの登録項目は通常複数個あり、その一部が欠けたままになっていると、メモリ内容を表示して調べ、補充する操作も初期登録と同様にわずらわしいもので、何らかの簡便な入力方法が求められていた。

【0004】本発明の目的は、メールを受信したときに、その相手方のメールアドレスを含むメール関連アドレス情報を簡便に自機のメモリへ登録・更新できるようにしたメール送受信機能を持つ携帯電話機を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は、メール送信手段及びメール受信手段と、少なくともメールアドレスを1つの項目として含むメール関連アドレス情報を記憶するためのメール関連アドレス情報記憶手段とを備えた携帯電話機において、前記メール送信手段は、前記メール関連アドレス情報を送信メール文に付加して送信するメール関連アドレス情報付加手段を有し、前記メール受信手段は、受信メール文に前記メール関連アドレス情報が付加されているか否かを判断する判断手段と、この手段により前記メール関連アドレス情報が付加されていると判断されたときにそのメール関連アドレス情報による前記メール関連アドレス情報記憶手段への登録もしくは更新を行うか否かを選択する選択手段と、この手段により登録もしくは更新が選択されたときに前記受信メール文に付加されたメール関連アドレス情報による前記メール関連アドレス情報記憶手段への登録もしくは更新を行う登録／更新手段とを有したことを特徴とする携帯電話機を開示する。

【0006】更に本発明は、前記登録／更新手段が、メールアドレス所有者固有の項目をキー項目として前記受信メール文中のメール関連アドレス情報と前記メール関連アドレス情報記憶手段に既に記憶されている各メール関連アドレス情報との比較を行うキー項目比較手段と、この手段によりキー項目の一致するメール関連アドレス情報が前記メール関連アドレス情報記憶手段に見つからないとき受信メール文中のメール関連アドレス情報をそのまま前記メール関連アドレス情報記憶手段へ登録するメール関連アドレス情報登録手段と、前記キー項目比較手段によりキー項目の一致するメール関連アドレス情報が前記メール関連アドレス情報記憶手段に見つかりかつ

その見つかったメール関連アドレス情報と受信メール文中のメール関連アドレス情報とに不一致があるときには受信メール文中のメール関連アドレス情報により前記見つかったメール関連アドレス情報の内容を更新するメール関連アドレス情報更新手段とから成ることを特徴とする携帯電話機を開示する。

【0007】

【発明の実施の形態】以下 本発明の実施の形態を図面を参照して説明する。図2は、携帯電話機の概略構成を示すブロック図で、CPU8はキーパッド等の入力装置1からの入力指示に従いROM3に格納されたプログラムを実行することによって、無線部7を経由して受信した情報を表示部2へ表示したり、スピーカ6から出力するなどの処理を行い、またマイク5からの音声情報を処理して無線部7から送信する。RAM4は、これら各処理を行うときのワークメモリとして動作するとともに、メモリダイアル情報等を記憶する。またメール関連アドレス情報記憶部41を有している。

【0008】図1は、本発明の特徴とするメール関連アドレス情報の登録・更新処理方法の例を示すフローチャートで、プログラムとしてROM3に記憶され、CPU8により実行される。同図(a)はメール送信時の処理を示しており、まず送信するメールを作成すると(ステップ101)、次にそのメールの送信先の相手方携帯電話で自分のメールアドレス等のメール関連アドレス情報を登録してもらうか否かの選択を行う(ステップ102)。この選択操作は、例えば機能キーに続く特定キーの押下を割り当てておけばよい。ステップ102で登録しないという選択を行ったときは、作成したメールにヘッダ部を付加して送信し(ステップ104)、送信処理を終了するが、相手方で登録するように選択したときは、自機のメールアドレス等を含むメール関連アドレス情報を送信メール文に付加し(ステップ103)、その後メールを送信する(ステップ104)。

【0009】図3は、上記のステップ103でメール関連アドレス情報を付加した送信情報の例を示しており、通常のメール文を構成するヘッダ部31と送信メール文であるデータ部33との間に、メール関連アドレス情報32が挿入されている。受信側では、ヘッダ部31は、通常固定長であるからメール関連アドレス情報32の先頭位置は容易にわかる。またメール関連アドレス情報32のデータ長を一定としておくか、あるいはメール関連アドレス情報32のデータ長をヘッダ部31に指定しておくことにより、受信側ではメール関連アドレス情報32とデータ部33との境目、つまりデータ部33の先頭位置も容易に検出できる。更にメール関連アドレス情報32が付加されているか否かは、ヘッダ部31にその情報を持たせることにより、受信側でメール関連アドレス情報の有無を判定できる。

【0010】図1(b)の受信処理では、メール文を受

信してそのデータ部の表示等を行うと(ステップ201)、そのヘッダ部を調べてメール関連アドレス情報の有無を判定し(ステップ202)、メール関連アドレス情報が含まれていれば自機がメール関連アドレス情報の自動更新モードに設定されているかを調べる(ステップ203)。このモードの設定は事前に行うようにしてもよいし、このステップで自動更新するか否かをユーザがキー操作で選択するようにしてもよい。ステップ203で自動更新が設定/選択されているときはメール関連アドレス情報記憶部41のメール関連アドレス情報を検索し、受信文中のメール関連アドレス情報と同じキー項目を持つメール関連アドレス情報があるかを調べる(ステップ204)。

【0011】図4はメール関連アドレス情報記憶部41に記憶されたメール関連アドレス情報の例で、この例では各メモリ番号ごとに「名前」「フリガナ」「電話番号」及び「メールアドレス」の4つの項目が示されている。ここで「名前」「フリガナ」は同姓の人がいるかもしれないので重複して記憶されることがあるが「電話番号」や「メールアドレス」はユーザ固有のIDであって、他と同じになることはない。したがって上述のキー項目としてはこのような固有IDを(1又は複数個)決めておき、ステップ204ではこのようなキー項目で一致/不一致を調べる。そしてもしキー項目で一致するものが記憶部41に見つからなければ、今受信したメールの相手方の情報は未登録であるので、送信されてきたメール文中のメール関連アドレス情報をメール関連アドレス情報記憶部41へ登録する(ステップ205)。

【0012】一方、受信文中のメール関連アドレス情報とキー項目の一致するメール関連アドレス情報が記憶部41にあったときは(ステップ204で“Yes”)、キー項目以外の項目で記憶部41に未登録のものや不一致のものが受信メール関連アドレス情報にあれば(ステップ206で“Yes”)、それを記憶部41に登録し(ステップ207)、受信処理を終了する。また、ステップ202、203、206のいずれかの判定が“No”のときは、そこで受信処理を終了する。

【0013】

【発明の効果】本発明によれば、メール送受信機能を持った携帯電話機において、メールアドレス登録操作を容易に行えるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の特徴とする送受信処理のフローチャートである。

【図2】本発明の携帯電話機の概略構成例を示すブロック図である。

【図3】送信メール文の例である。

【図4】メール関連アドレス情報の例である。

【符号の説明】

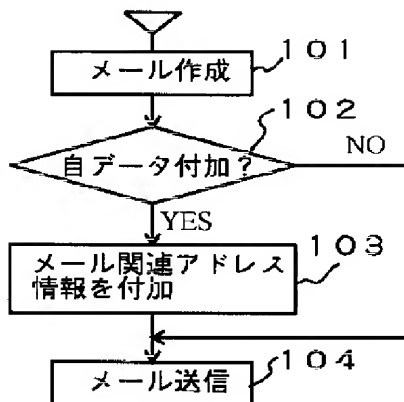
1 入力部

3 ROM
4 RAM

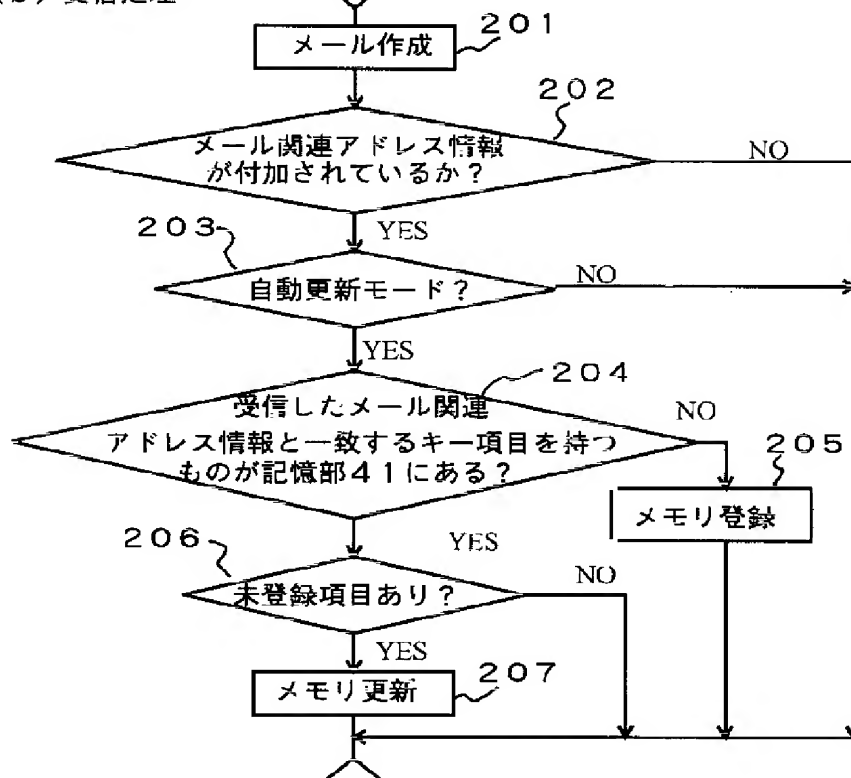
8 CPU
41 メール関連アドレス情報記憶部

【図1】

(a) 送信処理



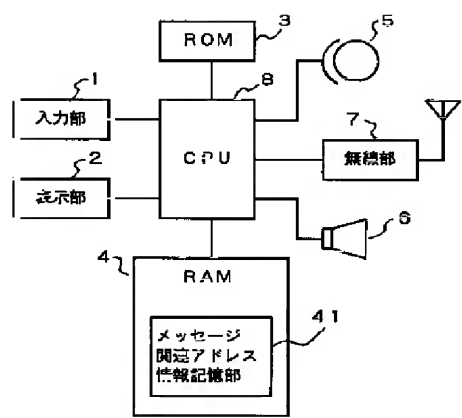
(b) 受信処理



【図3】

31 ヘッダー部 (送信者は認識しない。)	32 メール関連 アドレス情報	33 データ部 (送信者が作成するメール本文)
-----------------------------	-----------------------	-------------------------------

【図2】



【図4】

メール関連アドレス情報の例

メモリ番号	名前	フリガナ	電話番号	メールアドレス
1	鈴木	スズキ	09012345678	suzuki@aa.co.jp
2	遠藤	エンドウ	07023456789	endo@bb.co.jp
3	佐藤	サトウ	09034567890	sato@cc.co.jp
...				
n				